

**O-1 表面構造の異なるインプラント体における歯周病の既往による臨床経過の比較検討**

Comparison of clinical prognosis with history of chronic periodontitis and different surface designed implants.

○服部重信, 渡辺 浩, 藤野 茂  
○S. Hattori, H. Watanabe, S. Fujino

インプラント再建歯学研究会  
Institute of Implant Reconstructive Dentistry

**I 目的:** 機械加工表面を持つスクリュー形状インプラント (Ti-Screw), ハイドロキシアパタイトのプラズマスプレーコーティング表面を持つシリンダー形状のインプラント (HA-Cylinder), ワイヤ放電加工表面を持つシリンダー形状インプラント (WED-Cylinder) を埋入した患者を歯周病既往患者群と非歯周病既往患者群に選別し, 各インプラントの患者群の治療経過を調査することにより, 歯周病の既往歴の有無が, 各々のインプラントの経過に与える影響について比較検討した。

**II 材料および方法:** インプラントを埋入し, 上部構造物を装着した後10~25年間の経過した患者をHardtらの記載の変法に従い, 歯周病既往患者群と非歯周病既往患者群に選別し, 各インプラントについて患者群の成功率を比較検討した。

**III 結果:** Ti-Screwの歯周病既往患者群での成功率は85.9%, 非歯周病患者群では93.8%であった。HA-Cylinderの歯周病既往患者群での成功率は69.5%, 非歯周病患者群

では88.3%であった。WED-Cylinderの歯周病既往患者群での成功率は81.8%, 非歯周病患者群では94.6%であった。歯周病既往患者群については, Ti-ScrewとWED-Cylinderの成功率がHA-Cylinderの成功率と比較して有意に高かった。一方, 非歯周病既往患者群については, 3種類のインプラントの成功率に有意の差は認められなかった。

**IV 考察および結論:** HA-Cylinderは, 歯周病既往患者群ではTi-ScrewとWED-Cylinderと比較して経過観察期間にインプラントの骨吸収や脱落などの問題が発生する危険性が高いことが示された。このため, 特に歯周病既往患者のインプラント治療では, Ti-ScrewとWED-Cylinderの様な比較的表面粗さの小さいインプラントを選択し, 術前に残存歯の歯周病治療を行い, 上部構造物装着後の経過観察期間では, 残存歯とインプラントに対し, 十分なメンテナンス治療を行うことが重要である。

日本口腔インプラント学会倫理審査委員会承認  
承認番号 2018-21

**O-2 骨質関連生化学マーカーとサプリメント (ラクトフェリン) との関係**

Relationship between bone-biocheical marker and supplement (Lactoferrin)

○鈴木正史, 井畑秀久, 鈴木富士雄, 鈴木泰二, 増木英郎, 木村博光, 豊田寿久, 奥寺 元  
○M. Suzuki, H. Ibata, F. Suzuki, T. Suzuki, H. Masuki, H. Kimura, T. Toyoda, H. Okudera

一般社団法人東京形成歯科研究会  
Tokyo Plastic Dental Society

**I 目的:** 私どもはインプラント周囲炎症例と長期成功例を比較した際, 「骨代謝マーカーや架橋構造マーカーに差は見られるのか?」と言う研究に骨関連マーカーの値が3個の異常値を示した場合, 炎症を有するリスクは高くなり脱落する事を発表してきた。その事から私どもは骨代謝マーカー検査を臨床に反映している。近年, 乳由来多機能性蛋白ラクトフェリンが免疫, 抗菌, 骨形成に関与する事から骨代謝マーカー, 特に変化をもたらす骨の健康増進を行うと言う文献が有る。そこで患者の健康調査のため血液検査を実地した記録を基に後戻り調査でラクトフェリンを服用している使用前と使用后, 骨規定マーカーに興味深い結果が出たので報告する。

**II 材料および方法:** 乳由来多機能性蛋白 (NRL社製ラクトフェリン) のサプリメントを健康増進の為に服用している患者を対象に, 定期的に血液検査骨規定マーカーを行った患者を抽出し, その後ろ向きデータでの解析で骨吸収マーカー (血清NTx, クレチアニン補正後の尿中NTx, クレチアニン補正後のデオキシピリジノリン及びコラーゲンの架橋構造に関連するホモシステイン), 骨形成マーカー (骨型アルカリホスファターゼ) 等の数値を比較検討した。測定は検査所保健科学東日本総合ラボに依頼分析し

た。

**III 結果:** ラクトフェリンを服用しなかった時期と服用後の骨規定マーカー数値基準値を基に比較を分析した。その結果65歳女性で基準値をはみ出したものは5の骨規定マーカー中3個でROC解析で95%確率でインプラントにエラーが起こる数値であったが, ラクトフェリンD200mg 1日3回3週間後においては, すべて基準値に入り数値が良くなっている結果だった。同時にその他の患者を同様に分析し, 個々の数値の比較と同様であった。

**IV 考察および結論:** 一般歯科診療において歯周病及びインプラントのケアは主に歯牙清掃を含むことが主体であり, 疫学的にその効果が現状では発揮できないことから, 健康増進に積極的に取り組む必要性があることから, ラクトフェリンの持つ多種多様な働きで炎症や免疫力・骨代謝に関与する事で, 炎症抑制及びコラーゲン架橋破壊を抑制と骨形成に今回有効であったことからインプラントの長期保全の可能性が考えられることが示唆された。今後さらなる経過観察が必要とされる。

(倫理審査委員会番号: 17000114, 倫理審査委員会承認番号: 18201)